

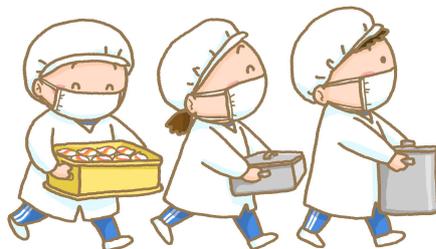


「おかわりは、給食を全部食べた人がします」・・・？

- ◎ 子供たちがいつも楽しみにしている給食。おなかがぺこぺこな子供たちは、真っ先におかわりをしたがります。時には、食器に食べ物が残っているのにおかわりをしようとする場合も…。でも、それはいけません。「おかわりは、給食を全部食べた人がします」と担任の先生からの言葉。ところが、これに戸惑ってしまう子供がいます。おかわりをしたいのに、給食を全部食べてからにしないといけないから？ ではありません。

「ぼくは給食を全部食べた。おかわりはしない。でも、給食を全部食べた人は、おかわりをしなければならない。したくないのに…。どうしよう…」

- ◎ これでは給食の時間が苦痛になりますね。給食を全部食べても、おかわりをしたい人はするししたくない人はしない。そのように多くの子供たちは理解するでしょう。でも、言葉をこのように理解してしまう子供がいる可能性があることも忘れてはいけません。
- ◎ 同じ言葉を聞いても、その意味の捉え方は人それぞれです。大部分の人が同じように理解しても、中には別の理解の仕方をもつ人もいます。私たち大人は、自分の話し言葉について子供たちがどのように理解しているかを感じとろうとするセンスをもっていたいものです。簡単なことだから「このくらいわかって当たり前」と決めつけてはいけません。



※「こころのお便り」は、情緒通級の現役教諭が原稿を書き、深大出版で編集しています。

子育てに悩む保護者の方、児童を理解したい先生等どなたでもプリントしてお使いいただけます。